

# 事業報告書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

公益財団法人 札幌交響楽団

公益財団法人札幌交響楽団は、定款第2章第3条に基づき、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上に関し、必要な事業を行い、もって札幌市及び北海道における文化と教育の振興に寄与することを目的とする事業を行った。

定款第2章第4条に掲げる事業を次のように行った。

2020年度のオーケストラによる公演

## (1) 札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。

### 1. 評議員、役員等及び事務局

評議員19名、理事20名、監事2名、事務局員14名（5ページ参照）

### 2. 交響楽団の編成

首席指揮者、名誉音楽監督、友情客演指揮者、指揮者 各1名、楽団員72名

ステージスタッフ、ライブラリアン及びパーソネルマネージャー 計5名（6ページ参照）

（2021年3月末日現在）

### 3. 首席指揮者、名誉音楽監督、名誉指揮者、指揮者及び楽団員は、次の回数の公演に出演し練習に従事した。

首席指揮者 マティアス・バーメルト 出演回数、練習日数ともに0日

（新型コロナウイルス感染予防対策のため、来日できず）

名誉音楽監督 尾高忠明 出演回数 4回、練習日数 6日

友情客演指揮者 広上淳一 出演回数 6回、練習日数 9日

指揮者 松本宗利音 出演回数13回、練習日数 5日

交響楽団としての出演回数は合計64回、他に無観客の動画配信用公演4公演あり、

これらの練習日数合計76日

この他小編成による教育や福祉関係の活動32回

なお交響楽団として移動日等も含めての稼働日数は145日

## (2) 交響管弦楽の演奏を行うこと。

新型コロナウイルス感染予防のため、2020年4月から7月まで演奏会の開催を取りやめた。8月以降も共催先の意向、依頼主からの要請により演奏会の中止・延期が続き、2020年度は計66公演を中止もしくは延期した。

### 1. 自主公演 計32公演

#### 【定期演奏会】12公演を実施

2020年4月から2021年3月までに1プログラムにつき2回ずつ計16公演を予定したが、そのうち12公演を開催した。2020年4月と5月の2プログラム4公演は新型コロナウイルス感染症予防のため、開催を中止した。

定期演奏会は札幌交響楽団の活動の軸になる公演であるが、バーメルトの出演はかなわず、尾高が1回2公演、広上が2回4公演を指揮した。

#### 【hitaru シリーズ新・定期演奏会】3公演

2020年から開始した hitaru での新・定期演奏会は年間4公演を予定したが、そのうち1公演を中止、3公演を開催した。

#### 【名曲コンサート】4公演を実施

予定した4公演を開催したが、うち2公演は開催日を変更、3公演は指揮者を変更して実施した。

#### 【特別演奏会】7公演を実施

○札幌市内公演（主催：札幌単独） 4公演

1. 札幌シンフォニック・ブラズ 5月 9日（中止）
2. 3 札幌ポップス・コンサート Vol.16（2公演） 7月15日（中止）
4. 5 札幌夏休みスペシャル～オケパンV「ショウほど素敵な商売はニャー!!」  
（2公演） 8月16日
6. 7 札幌の第9（2公演） 12月26日、27日
8. 札幌ふきのとうホール演奏会 3月 7日（中止）

○札幌市内公演（主催：札幌市、札幌）3公演（新規事業）

1. 北海道応援コンサート～Kitara でクラシック 10月15日
2. 北海道応援コンサート～hitaru でシネマ・ミュージック！ 11月 3日
3. 北海道応援コンサート～親子で聴くチャイコフスキー@市民ホール  
3月19日

新型コロナウイルス感染症の影響により多くの人が文化芸術を鑑賞する機会を逸失したことに對して、低料金でコンサートを開催すること、併せて札幌市が共催する感染対策を徹底したコンサートを開催することによって文化芸術の機運を高めることを目的として、札幌市と札幌交響楽団の共催で3公演を開催した。

#### ○北海道内地方公演 6公演を実施

1. 中川公演 6月28日（中止）
2. 浦臼公演 7月 6日（中止）
3. むかわ公演 8月22日
4. 小樽公演 1月16日
5. 鷹栖公演 3月13日
6. 苫小牧公演 3月14日
7. 中標津公演 3月27日（6月6日開催予定を3月27日に延期し実施）
8. 置戸公演 3月28日（6月5日開催予定を3月28日に延期し実施）

中川公演と浦臼公演は2021年度に開催を延期している。

○東京公演 2月 2日（中止）

## 2. 依頼公演 22公演を実施

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14回

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8回

多くの依頼公演が新型コロナウイルスのために中止となった。札幌市芸術文化財団（Kitara ならびに hitaru）、ほくでん、日本放送協会、札幌市中小企業共済センター（さぽーとさっぽろ）、日本演奏連盟のほか、NPO 法人はまなすアート&ミュージック・プロダクション、北広島市芸術文化ホール運営委員会など、団体、自治体の支援を受けて開催するにとどまった。なお、音楽宅急便「クロネコファミリーコンサート」（ヤマトホールディングス）、北洋銀行 Presents クラシックコンサートは無観客で開催、動画配信を行った（公演回数には含めず）

## (3) 青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。

### 音楽教室 10公演を実施

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4回

○北海道外公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6回

札幌市内公演は、市内高校の芸術鑑賞会2公演、文化庁依頼による学校公演2公演、北海道外公演は東京都、茨城県、千葉県での文化庁依頼によるものであった。北海道内公演は当初6公演を予定していたが、いずれも中止となった。この他に、Kitara ファーストコンサート中止に替わる収録と文化庁公演の中止に備えての収録を行った（公演回数には含めず）。

児童・生徒に向けてのワークショップ（体験型音楽教室）やフルオーケストラ公演の代わりに芸術鑑賞会などを実施、参加者数を限定した。（計18回）

○ワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10回

○芸術鑑賞会等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8回

## (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

### 1) 広報宣伝

○プログラムの発行

自主公演では毎回、楽曲解説、楽団の活動報告、寄附のお願いを掲載したプログラムを発行、公演来場者及び会員、関係先に配布。

○告知活動

演奏会の開催状況、中止公演に対する払戻連絡等を随時発行した。

○クラウドファンディング

2020年5月から札幌公式ホームページでクラウドファンディングを告知、募集を開始した。8月からクリエイティブオフィスキューからの申し出により、「ともに生きよう」プロジェクトを行った。

## 2) その他の公演事業

### ○アンサンブル（16回）

コンサートホール以外の様々な場所でも演奏し、北海道議会等へクラシック音楽を届けた。このうち新型コロナウイルス感染症の影響によりオーケストラの演奏会が中止となった期間、ほくでん、札幌観光協会、文化庁・日本芸能実演家団体協議会からの依頼によりアンサンブル演奏の収録を行った（計6回）。

### ○支援学校等への訪問演奏（8回）

特別支援学校に楽団員が出向き、学校校歌や生徒の馴染みある楽曲を演奏した。

公益財団法人札幌交響楽団 評議員、役員等及び事務局

評議員	相沢 克明	理事長	広瀬 兼三	事務局	
	阿部 博光				事務局長 多賀 登
	雨貝 尚子	副理事長	田中 良治(正巳)		
	有塚 広之		藤田 久雄	総務営業部	
	井田 重芳			部長	庄司 寿子
	岩崎 道郎	専務理事	鳥居 和比徒	次長	中川 広一
	梅岡 宏				奥山 大介
	大友 裕之	理事	石井 純二		岸本 彩子
	長内 勲			伊藤 義郎	木村 奈緒
	菅原 淳		大槻 博		小林 宏次
	武市 憲一		勝田 直樹		櫻田 千恵
	立川 宏		加藤 雅規		吉野 早苗
	千葉 潤		金井 昭雄		
	所 健一郎		川上 佳津仁	事業部	
	長沼 修		堰八 義博		部長
	林 泰男		築地原 康志	次長	黒田 朋子
	三部 安紀子		寺内 達郎		大島 (種池) 純子
	三輪 宣彦		中村 達也		田畝 敦志
	和田 敬友		似鳥 昭雄		本宿 (柴崎) 麻里絵
評議員 19名		根岸 豊明		事務局員 14名	
		東原 俊郎			
監事	小寺 正史		萬田 直紀		
	酒井 純		村田 正敏		
	監事 2名	理事 20名			

(2021年3月31日現在)

## 札幌交響楽団 指揮者・楽団員名簿

首席指揮者 マティアス・バーメルト

名誉音楽監督 尾高 忠明

友情客演指揮者 広上 淳一

指揮者 松本 宗利音

コンサートマスター 1名

田島 高宏 特別契約

チェロ 8名

荒木 均

ホルン 5名

岩佐 朋彦

ヴァイオリン 21名

赤間 さゆら

石川 祐支 首席・特別契約

折笠 和樹 インスペクター

飯村 真理 副首席

伊藤(武田)芽衣

島方 晴康

稲場(岡部)亜希子

小野木 遼

土谷 瞳 副首席

井上 澄子

角野 友則

山田 圭祐 首席

大西(佐藤)郁子

猿渡 輔 副首席

トランペット 4名

小林 昌平

河邊 俊和

坪田 亮

佐藤 誠

桐原 宗生 首席・特別契約

廣狩 理栄

鶴田 麻記 副首席

熊谷 勇大

コントラバス 6名

飯田 啓典 副首席

福田 善亮 首席

小林 美和子 副首席

稲橋 賢二

トロンボーン 3名

田中 徹

坂井(多賀)万純

大澤 敬

中野 耕太郎 副首席

迫田(竹中)遥加

斎藤 正樹

山下 友輔 首席

高木 優樹

下川 朗

バストロン1名

澤山 雄介

鶴野 紘之

吉田 聖也 首席

チューバ 1名

玉木 亮一

ディパスクアレ・ウインチェンツォ

フルート 2名

川口 晃 副首席

ティンパニ・打楽器 4名

入川 奨 首席

土井 奏

福島 さゆり

大垣内 英伸

中村 菜見子

オーボエ 2名

上野(関)美矢子 首席

大家 和樹 副首席

橋本 幸子

宮城 完爾

細江 真弓

福井 岳雄

クラリネット 2名

白子 正樹 副首席

楽団員計 72名 うち特別契約 4名

三原 豊彦

三瓶 佳紀 首席

ヴァイオラ 9名

青木 晃一 副首席

ファゴット 3名

坂口 聡 首席

パーソネルマネージャー 高井 明

荒木 聖子

眞田(夏山)朋子

ステージマネージャー 田中 正樹

鈴木 勇人 インスペクター

村上 敦 副首席

ステージスタッフ 安達 嵩博

仁木 彩子

山下 大樹

橋本 純一郎

ライブラリアン 中村 大志

樫本 朱音

スタッフ計 5名

廣狩 亮 首席・特別契約

水戸 英典

物部 憲一

(2021年3月31日現在)

---

# 札幌交響楽団 2020年度活動報告

2021年5月6日作成

---

公益財団法人 札幌交響楽団

<https://www.sso.or.jp>

# 札幌交響楽団の活動

オーケストラ演奏会 計64公演 ※中止58公演

## ■ 自主公演(32公演)

定期演奏会(札幌市内) 15公演 ※中止5公演

札幌市内 11公演 ※中止3公演、追加3公演

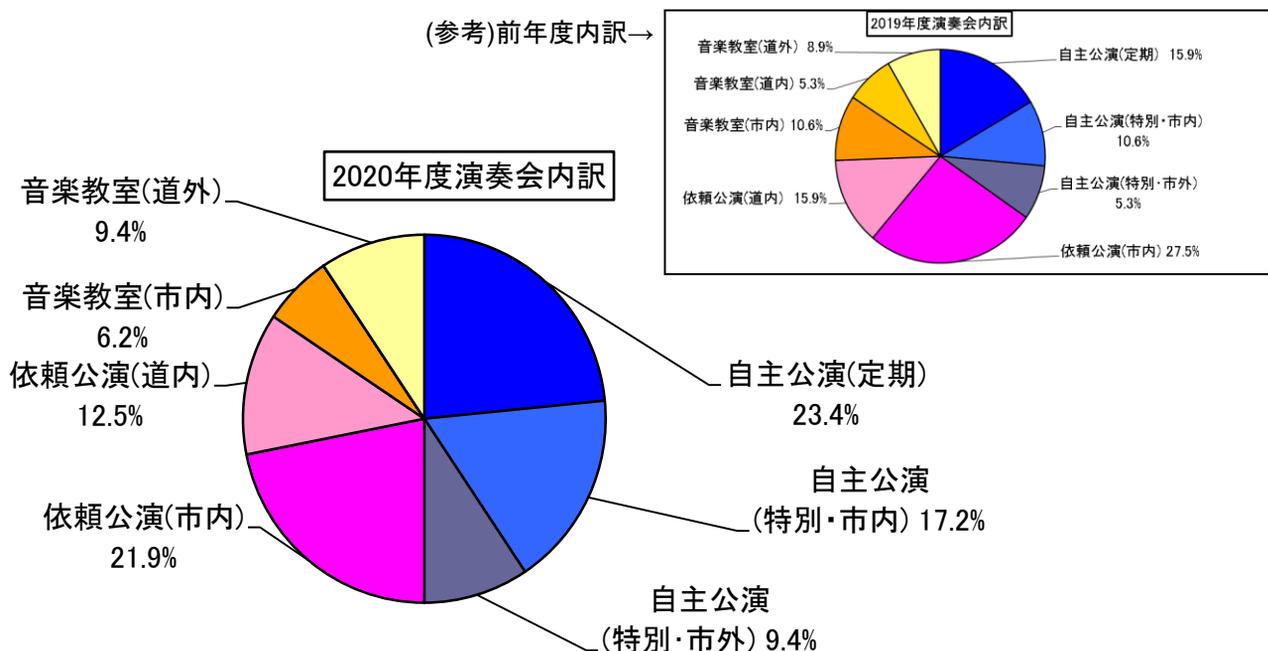
北海道内 6公演 ※中止2公演

北海道外 0公演 ※中止1公演

■ 依頼公演(22公演) ※計画時46公演、無観客開催(収録)2公演は含まず。

■ 音楽教室(10公演) ※計画時32公演、無観客開催(収録)2公演は含まず。

(参考)前年度内訳→



教育・地域活動、アンサンブル演奏 計36公演

**総計100公演**

# 自主公演 札幌が主催する演奏会

開催日程の変更や、札幌市による追加公演など、可能な限り開催に努めました。

## ■ 定期演奏会 15公演

この年度から2つのシリーズで20公演を予定

定期演奏会 8プログラム 16公演

新・定期演奏会 4プログラム 4公演

※4、5月 定期4公演 新・定期1公演の計5公演を中止

## ■ 札幌市内公演 11公演

札幌名曲コンサート(4公演) ※2公演は振替開催

アキラさんの大発見コンサート(2公演)

札幌の第9 in hitaru (2公演)

札幌市共催「応援コンサート(3公演) ※追加公演

※5月 札幌シンフォニック・プラス 中止

※7月 札幌ポップスコンサート(2公演) 中止

※3月 ふきのとうホール演奏会 2021年度に延期

## ■ 北海道内公演 6公演

8月 むかわ公演(北海道胆振東部地震被災地復興支援)

1月 札幌ニューイヤーコンサートin小樽

3月 鷹栖公演

3月 苫小牧公演 = 前年度3月に中止となった公演

3月 中標津、置戸公演 = 6月予定を年度内で延期開催

※ 6~7月開催予定で中止とした中川公演、浦臼公演は2021年度内に延期開催で調整

## ■ 北海道外公演 開催無し

※ 東京公演2021 (東京・サントリーホール) 中止



今年度ははじめた新・定期演奏会は第1回が開催中止に。8月開催の第2回がシリーズ初回でした。続く第3回(1月)、第4回(2月)も出演者変更をせざるをえませんでした。シリーズを継続させることができました。



札幌市との共催で感染対策のもと「北海道応援コンサート」を3回開催、音楽ファンにとっても札幌にとっても、貴重な演奏会の機会となりました。



北海道胆振東部地震の被災地復興支援事業として開催のむかわ公演(8月)が、再開後最初の市外での演奏活動でした。

# 依頼公演

## 企業、自治体などの依頼で行う演奏会

7月末までの演奏活動停止期間はもとより、活動再開後も多くの依頼公演が中止となりました。

### ■ 札幌市内公演 14公演

札幌芸術文化財団主催(Kitara、hitaru) 8公演

Kitara→ 9月 ファミリーコンサート ※追加公演

10月 元気コンサート ※追加公演

1月 オペラティックニューイヤー

hitaru→ 11月 新国立劇場バレエ団 2公演

1月 喜歌劇「こうもり」2公演

2月 北海道二期会「蝶々夫人」

各企業主催 6公演

9月 あいプラン主催 ラブ&サンクスコンサート(写真上)

11月 日本放送協会(NHK)主催 公開録音 ※追加公演

1月 さぼとさっぽろ主催 ニューイヤーコンサート

2月 日本演奏連盟主催 新進演奏家育成プロジェクト

3月 日本自動車連盟(JAF)主催 「音楽日和」

3月 ビルボードジャパン主催 玉置浩二コンサート

ほかに、札幌応援のためのCD収録と、予定していた公演を無観客で配信用動画収録に転じた公演が2つがありました。

(以上3公演は公演数に含まず)

7月 オフィスキュー「ともに生きよう」CD収録(写真中)

8月 音楽宅急便クロネコファミリーコンサート」配信用収録

12月 北洋銀行プレゼンツクラシックコンサート 配信用収録

### ■ 道内各地の公演 8公演

北海道新聞社との共催 4公演

～年度後半に予定していた以下4市での公演については、各自治体や運営団体の支援も受けて開催することができました～

11月 江別(えべつ楽友協会)

12月 岩見沢(はまなすアート&ミュージック・プロダクション)

2月 北広島(北広島市芸術文化ホール運営委員会)

3月 滝川(アートステージ空知)(写真下)

ほくでんファミリーコンサート 4公演

(小樽、由仁、登別、幕別)



感染対策を実施しながらの演奏会開催は負担が大きいため、企業や市民団体による公演は中止や無観客が多くなりました。



開催できない公演の代わりに、CDや動画収録を行っていただく、あるいは寄付をいただくなど、各主催者さまがそれぞれに札幌存続のためご配慮くださいました。



苦難の2020年度も、市民合唱団参加による第九(滝川公演)でしめくることができました。次の年度への希望を感じる公演の成功でした。

# 音楽教室

## 青少年向けに音楽の 楽しさを伝える演奏会

学校が閉鎖となり、授業のリモート化が必要とされた2020年、子どもたちを対象とする音楽教室も、開催形態に工夫が必要でした。

### ■ Kitaraファーストコンサート

札幌市内の全小学6年生がKitaraに集まる機会となるため、「Kitaraファーストコンサート」は開催が見送られ、代わりに公演内容を収録した教材用のDVD製作が行われました。  
完成した教材は、札幌市内の学校などへ配布され、学校において授業に活用される予定です。



↑ 札幌指揮者松本宗利音の指揮でKitaraファーストコンサートを収録した教材DVDが製作されました。

### ■ ジュニアクラシック 2公演

北海道新聞社などの助成を受けて、道内各地で毎年開催してきたジュニアクラシックコンサートは予定していた6公演すべてが中止となりました。  
10月に札幌市と石狩市の高等学校2校を対象に、Kitaraを会場としたジュニアクラシックを実施しました。

### ■ 文化庁主催・文化芸術による 子供の育成事業(巡回公演) 8公演

文化庁主催の巡回公演として予定されていた派遣先は、東京都、茨城県、千葉県の7校でした。  
このうち1校を除く6校では、少人数での事前訪問とオーケストラ演奏会の両方を10～11月に実施することができました。さらに、2月に追加公演として札幌市内の小学校でも2公演を実施しました。  
なお、秋には、巡回公演ができなくなった学校のために公演内容を収めた動画を作成しました。



文化庁による巡回公演で、行事が少なくなった子どもたちの学校生活に音楽をお届けし、喜んでいただきました。

# 教育・地域活動、 アンサンブル演奏会



身近に音楽をお届けするアンサンブル演奏の回数は16回と例年より数が少なく、鑑賞者も少なくなりました。しかし、ライブ配信などを組み合わせることで、多くの方に音楽をお届けしました。



小学校を訪問し、楽団員が子どもたちと交流するワークショップや楽器クリニックは実施することができませんでした。特殊支援学校を対象としたスクールコンサートは、道内各地の8校で実施しました。



演劇など他ジャンルのアーティストのみならずともコラボして、観光プロジェクト動画に出演など地域を活気づけるための取り組みに参加しました(ライブアートツアー)。



道内ホールの再開に向けた試演会への協力や、文化講演会への講師派遣など、コロナ禍で不足する各地の文化イベントの担い手となりました。

# 60周年を前に・・・

## ● 存続の危機に楽団全体で取り組みました

オーケストラの活動休止による存続の危機に、支援を募るクラウドファンディングを開始。楽団員発案の返礼品を用意し、その内容は大きな反響を呼びました。

また、支援の呼びかけのポスター（案）を楽団員がデザインし製作。全道に配布のためコンサートマスターが持参したことをはじめ、楽団員、事務局がそれぞれに支援の呼びかけを行いました。

また、リモートでのアンサンブル演奏や楽団員の取り組みをレポートする動画の制作・配信など、楽団員と事務局が協調し、取り組みを行いました。



## ● 演奏会再開には会場、来場者の皆様の協力をいただきました

演奏会再開にあたり、7月には、札幌コンサートホールのご協力をいただき、試奏会を開催しました。

また、来場のお客様には座席や日程の変更、感染症対策にご協力いただき、演奏会を再開、継続することができました。

定期会員の皆様には、Kitara工事休館にともなう定期演奏会会場の変更と会員席移動にもご理解とご協力をいただき、スムーズな移行を行うことができました。



## ● コロナ禍のその先に

コロナ禍のもと様々な取り組みを行った中で、  
・アンサンブル演奏や青少年向けの楽器指導、トークなど様々な札幌交響楽団をアピールする「動画配信」

・クラウドファンディングの返礼として実施した「学校校歌のオーケストラ版CD作成」「支援者との舞台記念撮影」

など新たなファンサービスとして、今後も継続や発展が考えられるプランが多数生まれました。

また、感染対策の必要に迫られて取り入れることとなった、「オンライン上の寄附金・会費の收受システム」、「チケットレス入場方法の拡充」などは、効率的な今後の演奏会運営に活用していくこととなりました。

感染対策と演奏会の両立を行うには制約や困難はまだ続きます。しかし、工夫を重ねる中で、より良いオーケストラ運営を目指すことができると考え、努力してまいります。

